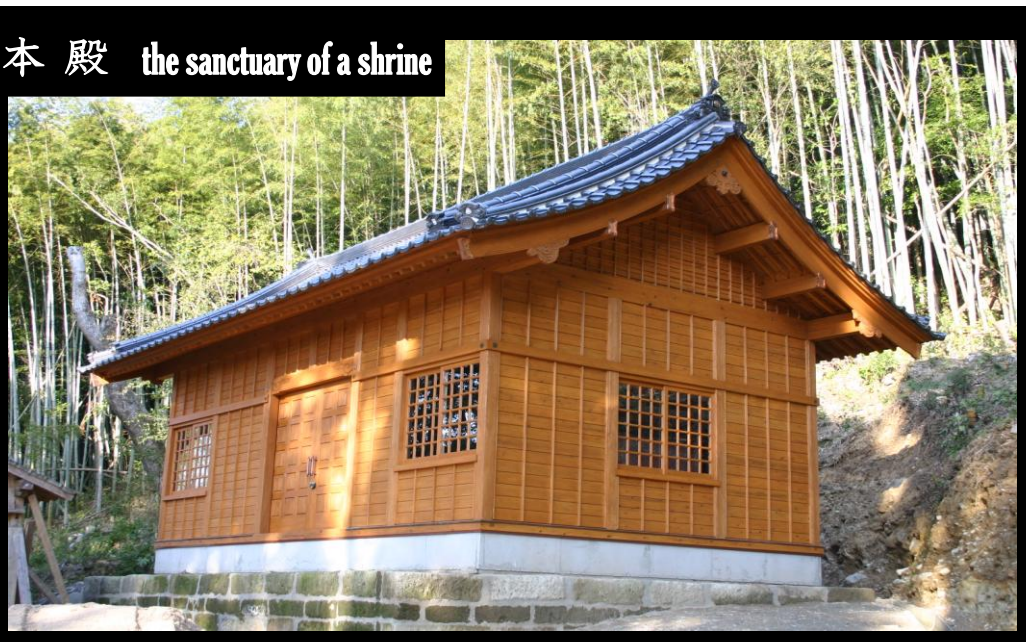
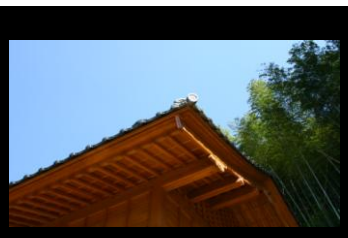
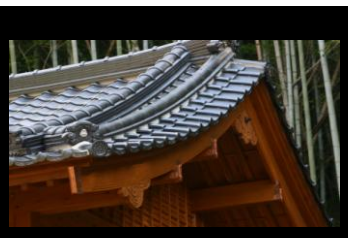
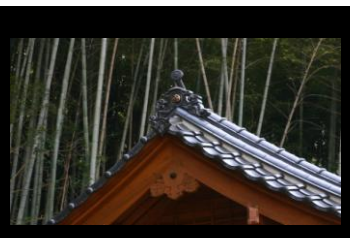
本 殿 the sanctuary of a shrine



1390年建立の諏訪神社

宮之城技専生本殿を改築

人形浄瑠璃に活用へ

薩摩川内・東郷 中世の技 実践習得

薩摩川内市東郷町斧渕にある諏訪神社の本殿改築を、県立宮之城高等技術専門校（宮之城町船木）の学生が手がけ、依頼した斧渕地区コミュニティ協議会（桑波田景美会長）に引き渡した。同協議会は、国の重要無形民俗文化財に指定答申された東郷文弥節人形浄瑠璃の練習や上演場として活用したい考え。

神社の改築作業をする専門校生ら ＝薩摩川内市東郷町斧渕

同協議会によると、諏訪神社は三九〇年建立とされる。一九二五（大正十四）年の大改築以降、数回の補修を施したが、最近は雨漏りがひどく、柱や床の一部が腐り穴が開いていたという。

同協議会は改築建設委員会を立ち上げ、昨年四月から住民に改築費の寄付を募った。しかし目標額に届かなかったため、専門業者には頼まず、同校の木造建築施工現場実習として依頼した。

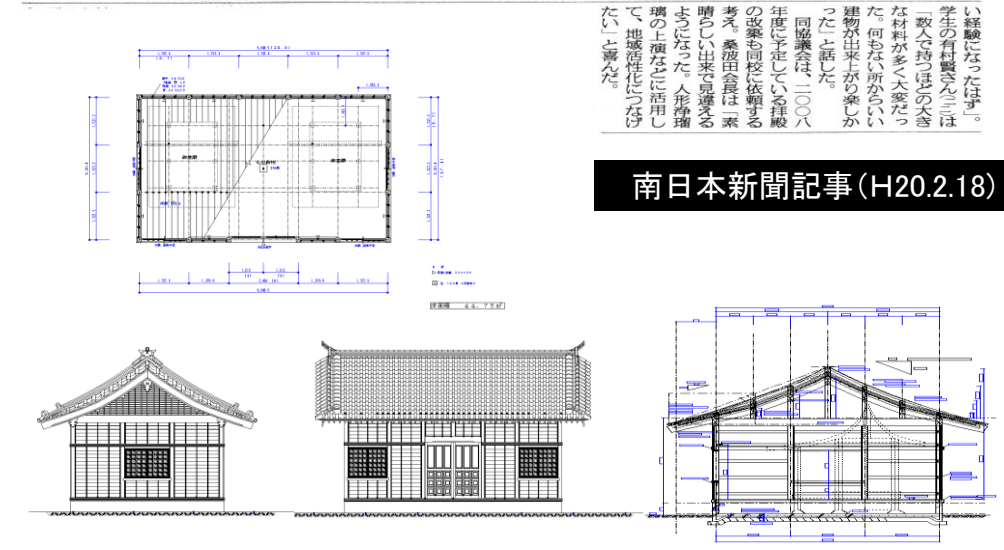
担当したのは建築工学科の二年生二十人。住民が持ち寄った木材の加工に十月から取りかかり、床面積約四十五平方メートルの本殿が一月末に完成、二月七日に引き渡した。吉徳敏明・訓練第一課長は「神社改築の依頼は初めて。中世時代の継ぎ手や反った屋根など特有の技術が必要で、学生にはいい経験になったはず」。

学生の有村賢さん（二）は「数人で持つほどの大きな材料が多く大変だった。何もない所からいい建物が出来上がり楽しかった」と話した。

同協議会は、二〇〇八年度に予定している拝殿の改築も同校に依頼する考え。桑波田会長は「素晴らしい出来で見違えるようになった。人形浄瑠璃の上演などに活用して、地域活性化につなげたい」と喜んだ。

改築前の諏訪神社（宮之城高等技術専門校提供）

南日本新聞記事（H20.2.18）



Before ➡ After

■Data
建築主／斧渕地区諏訪神社改築建設委員会
会長　桑波田景美
施工主／斧渕地区諏訪神社改築建設委員会
場　所／薩摩川内市東郷町斧渕字宮原6402-3
種　別／諏訪神社本殿改築
面　積／44 ㎡
■Schedule
期　間／平成19年10月 ～ 平成20年2月
■Trainee

2007 木造建築施工現場実習

鹿児島県立宮之城高等技術専門校
Kagoshima Prefectural Miyanojyou Technical Training School